

すべての人の水と衛生のアクセスを実現するために

特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパン事務局長 高橋 郁

<概要>

国際 NGO, WaterAid は、水と衛生の危機を解決するために、アジア、アフリカ、中央アメリカ、太平洋地域の 27 か国において水と衛生の支援に取り組んでいる。活動を進めるうえで、指針としているのが次の 5 つの言葉 — Appropriate (適切な), Integrated (統合した), Sustainable (持続的な), Informed (知識のある), Transferable (移転可能な) である。

安全な水と衛生設備のない暮らし

きれいで安全な水のない生活 — 7 億 6,800 万人の人々にとっては、それが日々の現実である。トイレのない暮らし — それに分かりすぎるほど分かっている人々が、世界には 25 億人いる。¹

7 億 6,800 万人 — 世界人口のおよそ 10 分の 1 — の人々は、安全な飲み水へのアクセスがない。汚い池の水であれ業者が販売する高価な水であれ、手に入るならどんな水でも手に入れるよりほかに方法がない。人間の排せつ物を安全に処理する衛生設備は、健康で満足な生活を送るために、欠くことのできないものである。ところが、25 億人 — 世界人口のおよそ 5 分の 2 — の人々は、まともなトイレがない環境で生活している。

安全な飲み水がないこと、衛生設備が

ないことは、人々の生活に大きな危機をもたらしている。安全な飲み水や、料理したり体を洗ったりする水が手に入らない人々は、水に関連した病気にかかる危険性が高くなる。



写真 1 地面に穴を掘り、カラバッシュ（ひょうたん状の果実）を使って衛生的ではない水をくむ（エチオピア）WaterAid/ Anna Kari

こうした病気が命取りになることもあり、毎日約 2,000 人の子どもが命を落としている。² 実は、本来予防・治療することが可能な病気による子どもの死の多くは、水衛生分野への取り組みが不十分であることによって起きている。というの

Part Two: Educational Objectives (What are the teaching goals?)

も、肺炎や下痢などの感染症は、5歳以下の子どもの死亡要因の上位となっているが、下痢の90%近くは不適切な水衛生環境によって発生しているからである。

安全で清潔なトイレがどこにもない地域に暮らす人々は、病気にさらされ、プライバシーも人間としての尊厳もない状態で排せつせざるをえない。排せつ物が野外に捨てられる地域では、病気の感染も早く、水源も汚染されてしまう。女性は日が暮れるのを待って、茂みや人目につかない場所に用を足しに行かなければならない。そうした場所では襲われたり暴行されたりする危険すらある。

家にトイレがないというモザンビークの女性、サンディムヒア・レナトさんはこう言った。



写真 2 娘を抱えて橋を渡るサンディムヒア・レナトさん（モザンビーク）WaterAid/ Eva-Lotta Jansson

「用を足すときには、家からだいぶ離れたところにある草むらまで行かなければなりません。草むらへの道は、遠くて危険

です。細長い木でできていて、増水すると見えなくなってしまうような危ない橋を渡っていかなければなりません。子どもが大きくなって、草むらに用を足しに行かなければならないと思うとそれもとても心配です。ときどきそこから落ちて命を落としてしまう人もいます。私が12歳のころ、クラスメートの1人がやはり橋から落ちて亡くなりました。彼女はとても仲のいい友だちだったので、今でも思い出すと悲しくなります。また、夜はとても危険なので午後5時以降はその橋を通らないようにしています。以前、女性と少年がナイフで殺される事件が起きました。私が知る女性は暴行されました。私は妊娠中でさえ、その橋を通して草むらに行かなければいけませんでした。」

水と衛生の欠如がもたらすもの

水と衛生が欠如していることは、途上国の問題である教育にも影響を与えている。子どもたち、とくに女の子は、家族が使う分の水を毎日くみに行くのが日課である。



写真 3 不衛生な水源から水をくむ子どもと女性たち（エチオピア）WaterAid/ Anna Kari

数時間、20kg 近くの水を運んで家と水源を往復することによって、学校に行く時間がなくなってしまふ。だんだん授業についていけなくなり、中退してしまうこともある。生理が始まった思春期の女の子たちは、トイレのない学校には通いづらくなる。トイレのない学校には、先生もなかなか来てくれないため、その学校の生徒たちは十分な教育を受けることができないでいる。同様に、水と衛生は保健医療とも密接なつながりがある。国連開発計画（UNDP）は、2006 年に発行した人間開発報告書のなかで、途上国の病院のベッドの半数は、不衛生な水と不適切な衛生環境による下痢が原因で苦しむ人々によって占められていると発表した。³

水・衛生分野の取り組みが不十分であることは、経済にも大きな打撃を与えている。人間開発報告書では、水・衛生の欠如によって、サブサハラ・アフリカ諸国が失う国内総生産（GDP）は、アフリカ大陸全体が受け取る開発援助の額を上回ると言われている。⁴

WaterAid の活動

国際社会は、貧困や教育、医療、ならびにこのような水・衛生など、途上国の問題を解決するための国際社会共通の目標として、2000 年、ミレニアム開発目標（MDGs）を策定した。MDGs のなかには 8 つの大きな目標があり、『目標 7 環境の持続可能性確保』のなかに、安全な飲料水と衛生施設を利用できない人口の割合を半減させ

る、という数値目標が明記されている。

MDGs の水に関する目標は、2015 年が来る前にすでに達成されたと言われている。しかしそうはいつでも、世界の人口の 10 分の 1 の人々は、いまだに安全な飲み水へのアクセスがない生活を送っている。また、この達成は、人口の多い中国とインドにおける改善が進んだことに大きく起因している。実際、サブサハラ・アフリカでは状況があまり変わっていないところ、または悪化しているところすらあるのが現状だ。⁵衛生に至っては、MDGs のなかで最も進捗が遅れている目標の 1 つであると言われている。

水・衛生の分野で 30 年間、専門的に活動してきた国際 NGO、WaterAid は、このような水と衛生の危機を解決するために、アジア、アフリカ、中央アメリカ、太平洋地域の 27 か国において水衛生支援に取り組んでいる。各地域で、最も貧しい、そして開発から取り残されたコミュニティを対象に、安全な飲み水と衛生設備を供給する支援を行っている。支援の効果を最大化するために、現地 NGO、現地政府などの現地パートナーとともに活動し、真のニーズに合った実用的な水と衛生設備の供給に取り組んでいる。その水衛生に特化した活動は高く評価されており、イギリスでは、25 万人を超える個人支援者が WaterAid の活動をサポートしている。

5つの活動指針

WaterAid が実際に活動を進めるうえで、指針としているのが次の5つの言葉—Appropriate (適切な), Integrated (統合した), Sustainable (持続的な), Informed (知識のある), Transferable (移転可能な) である。

これらの言葉には、真のニーズに合った支援をコミュニティの人々を巻き込みながら、適切な技術でもって行い、また、その効果がしっかり持続していく—そのような、非常に質の高い支援を実施するための各要素が詰まっている。

①**Appropriate**: 最も適切な支援を行うことを表している。そのために、WaterAid はその地域の文化、言葉、そして問題を最もよく理解している現地パートナーとともに活動している。それによって、コミュニティの本当のニーズをひろうことが可能となる。さらに、検証したニーズをもとに、WaterAid は、コミュニティの文化、土壌、地形、気候などに適した、低コストで実用的な技術・しくみを用いるようにしている。その結果、給水・衛生設備とその管理のしくみがコミュニティに根づいていく。

②**Integrated**: 給水や衛生の設備を設置するだけでなく総合的なアプローチをとることを表している。水と衛生は、保健医療、生計、農業などさまざまな分野とつながりがある。WaterAid は、単独で水衛

生の問題解決を図るのではなく、コミュニティ、現地パートナー、各分野などさまざまな分野の専門家たちと協力しながら、水と衛生に関わる問題の解決に取り組んでいる。

③**Sustainable**: 効果が持続する支援のことを表している。支援によって、短期的には改善が見られても、その効果が長期にわたって続かなければ、それは効果的な支援とはいえない。WaterAid が関わる期間だけでなく、コミュニティの人々が自分たちで長期的に水と衛生へのアクセスがある生活を維持していくことができることが大切である。そのため、WaterAid は、水と衛生の設備を作るだけではなく、その設備を維持管理する水委員会の仕組みを作るところも重視している。設備の維持管理方法も、トレーニングを通じてコミュニティの人々に教えている。さらに設備を作る際には、現地で容易に調達・運搬可能な資材や交換部品が使われている技術を用い、高価な部品や薬品がなくても、長期的に水の供給が実現できることを重視して、技術を選択している。

④**Informed**: 根拠に基づいて支援活動・政策提言を行うことを表している。WaterAid は、自身が行う活動や発信する情報が確たる根拠、または WaterAid の実際の経験に基づいていることを常に心がけている。またそのための、情報収集、調査、分析などにも力を入れており、スタッフもさまざまな勉強の機会が与えられている。

⑤Transferable : WaterAid が実施した水・衛生事業が、ほかの実施者によってほかのコミュニティでも行われることを表している。本来、水と衛生設備の供給は政府が担うべき役割である。WaterAid は、自分たちが実施した水・衛生事業、ならびにその効果を分析したデータを政府機関や公共事業会社に提示し、同じような手法で彼らがほかの地域でも水と衛生への取り組みを進めることを促し、サポートしている。



写真 4 WaterAid が建設した給水所で水をくむ女性（エチオピア）WaterAid/ Anna Kari

まとめ

このような指針をもって水・衛生事業に取り組むと同時に、WaterAid は、さらに多くの人々に支援を届けるために政策提言活動にも取り組んでいる。安全な水と衛生設備にアクセスできない人々の数はあまりに多く、WaterAid が単独で解決できるものではない。政府などの政策決定機関が政策を変えることで、さらに多くの人々に水と衛生設備を届けることが可能になる。WaterAid が実施した水・衛

生事業による効果をはじめ、さまざまな調査を重ねて報告書を発行し、水・衛生の問題に取り組むことの重要性を、現地レベル、国家レベル、あるいは国際レベルで意思決定を行う諸機関に提示している。

WaterAid は、2009 年、MDGs の期限である 2015 年までに、WaterAid の直接的な活動を通じてさらに 2,500 万人の人々が安全な水と衛生設備を利用し、衛生環境を改善できるようにすること、そして政府や公共事業会社に政策と実践方法の改善を働きかける政策提言活動によって、さらに 1 億人が水と衛生へのアクセスが可能となること、という意欲的な数値目標を掲げた。その期限まであと 1 年半という今、より多くの人に対して、水と衛生の重要性、そしてそれのない生活の過酷さを知ってもらいたい、そして WaterAid が取り組む問題解決のための活動を応援してもらいたいと考えている。

¹ WHO/UNICEF Joint Monitoring Programme (JMP) Report 2013 update

² Child Health Epidemiology Reference Group (CHERG), 2012 and Unicef Child Mortality Report, 2012

³ UNDP Human Development Report, 2006

<http://hdr.undp.org/en/media/HDR06-complete.pdf> page 45

⁴ UNDP: Human Development Report, 2006 より算出

⁵ WHO/UNICEF Joint Monitoring Programme for Water Supply and Sanitation 2010